

資料1

第125回火山噴火予知連絡会幹事会 議事録

日時：平成25年3月12日10時30分～12時10分

出席者：会 長 藤井

副 会 長 石原、清水、中田

出 席 者 今給黎、植木、宇平、大島、寺田、徳元（内閣府代理）、山口、山里、渡辺

事 務 局 舟崎、松森、菅野、荒谷、藤原（健）、坂井、藤原（善）、高木、小野、甲斐

オブザーバ 山本（気象研）

開会

- ・出欠の確認。木股委員は欠席。
- ・配布資料確認。

1. 報告事項

① 火山活動評価検討会について（検討会報告）

- ・資料①-1を説明。日本活火山総覧第4版の日本語版はほぼ完成し、現在製本作業中で、本年度中には完成してみなさまに配布できる見込み。英語版の編集は今月下旬までに翻訳作業は終わらせて5月末までに電子化を完成させる予定。
- ・資料①-2を説明。火山礫の形状は到達範囲に影響があり、火山礫の密度は落下までの時間に影響があるため、到達範囲の計算には扁平なものを、落下時間の計算には密度が大きいものを使うことが大事である。噴煙の高さは3～4kmまで上がれば空振計、地震計のエンベロープ、傾斜計の時間微分から推定できそうである。

<質疑応答>

- ・小さな噴石の形状はどうやって決めるのか。
- ・長軸を2倍したものとそれ以外の2つの軸の合計の比を扁平率として使用し、新燃岳での観察事例を参考にしながら2/3から1/3に変えてかなり扁平にした。

② 火山観測データの交換等に関する協定の締結状況について

- ・資料②を説明。平成24年12月に弘前大学と協定を締結し、岩木山の観測データの分岐を受けた。

<質疑応答>

- ・GPSデータ等の地殻変動データの交換は進めるのか。
- ・一部の大学とGPSデータの交換の話は出ているが、まだ具体的に検討会で議論する段階には至っていない。傾斜計データ等含め、今後の課題と認識しており、清水座長

とも相談していきたい。

③ 霧島山（新燃岳）総合観測班の活動状況について

- ・資料③を説明。

<質疑応答>

- ・火口近傍にある気象庁の新燃岳北東傾斜計は、ここでしか見えない変化を捕えることがわかっているので、年度内の復旧を目指していたが、今回地震活動が活発化したので延期した。今後火山活動の様子を見ながら早期復旧を目指したい。
- ・現地事務所は前と同じ場所か。
- ・同じ場所である。

④ 噴火警報の改善に伴う警報文の変更の運用開始について

- ・資料④を説明。改善した警報文では居住区域を含むところと含まないところを分けて発表する。範囲が狭まった場合には警戒が必要なくなったことも発表する。

<質疑応答>

なし。

⑤ 降灰予報の高度化に向けた検討会の検討状況について

- ・資料⑤を説明。

<質疑応答>

- ・4ページ目の図（カテゴリー表）は分かりやすくなっていると思うが、提言に掲載されるのか。
- ・提言の取りまとめでは、例として掲載する。
- ・一部報道では、事務局原案の図（5区分）が使われているが、現在ではこの図（3区分）になっている。
- ・1mm以上というのは、どのくらいの時間を考えているのか。
- ・降灰予報は、噴火という現象があった以降の降灰について発表する。これまでに積もった分は対象とせず、これから降り積もる分を対象とする。

⑥ 特別警報の導入について

- ・資料⑥を説明。

<質疑応答>

なし。

⑦ 防災基本計画に基づく火山防災協議会の役割と事例

- ・資料⑦を説明。平成23年～24年にかけて改定された新しい防災基本計画に基づき、富

士山と新潟焼山の火山防災協議会が設置されたこと紹介。また、地震活動がみられていた箱根山について、火山防災協議会からのお知らせを共同発表したことを紹介。

<質疑応答>

なし。

⑧ 内閣府における火山防災対策の推進に係る取組について（内閣府）

・資料⑧を説明。

<質疑応答>

なし。

⑨ 科学技術・学術審議会測地学分科会の活動状況について（文科省）

・資料⑨を説明。東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の在り方について（建議）の目次を用いて紹介。平成24年の補正予算では防災科研の火山観測網整備が認められた。

<質疑応答>

・建議の2章で火山防災についても触れられているので、読んでいただければと思う。

⑩ 桜島における土石流の発生状況について（砂防部）

・資料⑩を説明。

<質疑応答>

なし。

⑪ 桜島（昭和火口周辺流域）における地形・浸食堆積量変化について（砂防部）

・資料⑪を説明。平成18年から観測を行っているが昭和火口の拡大が続いている。流域が変わってきているのでひきつづき状況を把握していきたい。

<質疑応答>

・レーザ測量データを使わせていただけないか。

・国土地理院には公共測量の枠組みでレーザ測量データを提供している。

⑫ 霧島山（新燃岳）における地形変化について（砂防部）

・資料⑫を説明。噴火前後を比較して新燃岳の南西側に最大10m以上堆積している。

<質疑応答>

・霧島山の地形データを使いたいので提供いただけないか。

・予知連からの要請があり、防災目的ということなら活用いただければと思う。

⑬ 火山噴火に起因した土砂災害予想区域図作成の手引き（案）について（砂防部）

- ・資料⑬を説明。ハードとソフトのバランスの考え方と、避難計画検討への活用を明記して利用を促したい。また、まだ予想区域図が作成されていない火山のうち、5火山については、土砂災害対策の検討のため今後予想区域図を作成する予定であり、成果については地元とも共有したい。

< 質疑応答 >

- ・内閣府の「火山防災マップ作成指針」との関係はどうなっているのか。
- ・内閣府は火山防災マップ全体の作成指針だが、国土交通省の手引きは緊急減災のためのシミュレーション方法がメイン。
- ・内閣府の「防災マップ作成指針」の中でも国土交通省の「作成の手引き」を紹介し使っていたようにしている。
- ・今後区域図を作成する予定の5火山はどこか。
- ・大雪山、栗駒岳、乗鞍岳、白山、日光白根山である。

⑭ 気象庁の火山観測施設の整備の状況について

- ・資料⑭を説明。

< 質疑応答 >

- ・平成25年度の地震計はボアホールか。
- ・地上設置の老朽化した観測点の更新である。

⑮ 気象庁機動観測実施状況及び来年度の実施計画案について(火山灰の簡易的な粒子解析の実施、を含む)

- ・資料⑮を説明。来年度から火山灰の簡易的な粒子解析を実施する。一昨年から鹿児島地方气象台でサンプルの写真を撮って産総研に送って解析してもらっており、速報的な情報を得ることができるようになる。

< 質疑応答 >

- ・新燃岳のとき火山灰の粒子の影響が大きかったので情報共有してほしい。
- ・産総研からのフィードバックはどういうものか。
- ・どのようなものが含まれているか、割合に変わりはないか、という内容。画像だけなので量の情報は無い。
- ・写真だとわかりにくいので、光源の向きを変えたものも送るといい。
- ・予知連WEBで情報共有するので、専門的な提案があれば願います。

⑯ 火山防災協議会における噴火警戒レベルの設定・改善について

- ・資料⑯を説明。7火山で噴火警戒レベルの運用開始に向けて調整中である。欄外に記載しているが、薩摩硫黄島の噴火警戒レベルを平成24年11月にレベル1に下げた。なお、レベルの「導入」という表現は気象庁による単独施策であるとの誤解を受けやす

いことから、レベルの「設定・運用開始」といった表現を用いている。

<質疑応答>

なし。

⑰ 衛星解析グループの活動状況について

- ・資料⑰を説明。

<質疑応答>

なし。

⑱ 三宅島の火山ガス注警報の発令状況について

- ・資料⑱を説明。今期間、レベル3が薄木・栗辺地区で1回発令された。

<質疑応答>

なし。

⑲ 火山噴火予知連絡会の開催日について

- ・例年6月、10月、2月に開催するが、予知連開催後に次回の日程調整を行うと委員の皆さんの予定が埋まっていて、今回3月になった。火山活動の定期的な評価を6月、10月、2月にできるように、年度の当初に定期開催分（全3回）の日程を調整させていただきたい。

<質疑応答>

- ・調整はどのように行っているのか。
- ・会長、副会長の他、そのときに活動が活発な火山に係る委員は出席できるように調整している。

⑳ 火山噴火予知連絡会のペーパーレス化について

- ・iPadを端末にした無線LAN会議システムの導入を検討していたが、国土交通省のセキュリティポリシーで無線LANを使えないことがわかった。パソコンを持ち込んでいただく形を拡大していきたい。

<質疑応答>

なし。

2. 全国の火山活動について

- ・報道発表資料（案）の説明。新燃岳、桜島、十勝岳、蔵王山、日光白根山、箱根山、硫黄島、阿蘇山、口永良部島について評価文を基に説明。噴火警報運用改善に伴って「警戒が必要です」を「警戒してください」に変更した。

<質疑応答>

- ・箱根山の「火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候」とあるが、火口はどこか、どんな活動か気になる。
- ・本会議の中で調整する。
- ・文章が長いので、事実関係と評価を分けて簡潔に書いたほうがいい。
- ・次回以降そのようにする。